

丹波市未来都市創造審議会（第5回） 会議録（要旨）

- 日時：平成31年2月21日（木）午後2時～
- 場所：氷上保健センター 2階 ホール
- 出席者委員：
 - 識見を有する者：角野幸博委員、岡絵理子委員、北川博巳委員
 - 公募による市民：荻野美恵子委員、白滝里香委員、本庄健吾委員
 - 公共的団体の代表者：大野亮祐委員、酒井浩二委員、大谷吉春委員、吉住孝信委員、
田中延重委員、坂谷高義委員
 - 各種団体等から選出された者：足立由夏委員、大木玲子委員、十倉貫委員
 - 関係行政機関の職員：福本豊委員
- 欠席者委員：
 - 各種団体等から選出された者：足立はるみ委員
- 出席職員：
 - 丹波市副市長、技監兼入札検査部長、企画総務部長、
 - 企画総務部政策担当部長、財務部長、生活環境部長、まちづくり部長、
 - 福祉部長兼福祉事務所長、健康部長、産業経済部長、建設部長、
 - 消防長、教育部長
- 事務局：
 - 未来都市創造部長、未来都市創造部都市創造課長、未来都市創造部都市創造課都市政策係長

議事：（1）丹波市の新しい都市構造のあり方「まちづくりビジョン」素案について
（2）統合庁舎の候補地について

配布資料：【資料1】丹波市の未来をえがく Vol.5 ニュースペーパー
【資料2】丹波市市民意向調査報告書（抜粋） 調査結果の概要と分析
【資料3】丹波市の新しい都市構造のあり方「まちづくりビジョン」素案

1 会長あいさつ

これまでの議論を踏まえ、まちづくりビジョン素案について、ご意見を頂戴したい。どうぞよろしくをお願いします。

2 議事

(1) 丹波市の新しい都市構造のあり方「まちづくりビジョン」素案について
事務局（資料3の説明）

●まちづくりビジョン素案について

【意見要旨】

委員

統合庁舎の位置の記載について、41 ページの行政ゾーンの説明において、J R 柏原駅周辺のみが行政ゾーンと受け取れる記述となっている。統合庁舎の候補地が決まったかのように捉えられる。別の47、49 ページについては、中心部に統合庁舎を配置するという広い位置付けがされている。

56 ページについて、地域包括ケアシステムでは、「地域を共につくっていく社会の実現は？」の部分が重要であると考えている。市民が考える地域包括ケアシステムは、福祉、介護、医療という位置付けで、その部分のみの解決と捉えられがちである。地域包括ケアシステムを構築していくためには、安全・安心を含めた市民生活のいろいろな面の助け合いであり、幅広い意味での地域包括ケアシステムを位置付ける必要があり、表現を柔らかくしておいた方がよい。

事務局

41 ページの行政ゾーンの説明について、捉え方として、広い意味で、J R 柏原駅周辺が、国や県の行政機能が集積している趣旨の表現を意図して書き込んでいたが、J R 柏原駅周辺という記載が正しいかどうかについてご意見を頂いたので、庁舎の位置が決まっているかのような誤解を招かないよう記述内容を検討したい。地域包括ケアシステムについては、医療、介護、福祉だけでなく、住まいや生活支援といった総合的な観点で、考えさせていただきたい。

出席職員

地域包括ケアシステムについて、自治協議会や社会福祉協議会と一体となり、よろずおせっかい支援センターなどの取組みを行っている。地域の皆さんと福祉行政が一体となり、取り組んでいる趣旨の記載の追加が必要ではないか。地域包括支援センターや社会福祉協議会の拠点の位置を地図上に明示する必要があるので、内部で検討したい。

委員

37 ページの表の最下段の「観光交流機能」を「レクリエーション・観光機能」に修正してはどうか。44 ページのめざすべき未来都市構造のイメージ図は、「レクリエーション・観光機能」以外の部分が入っているため、44 ページの次に、レクリエーション・観光機能のイメージ図を作成し、17

ページの図表 観光資源分布図の主要施設の位置をプロットし、山、森の部分で緑で塗った地図を付けてはどうか。44 ページは、透明のシートに印刷し、重ねることで、丹波市らしい構造図になるのではといった提案です。

事務局

今の提案については、複雑な部分はあるが受け止めさせていただいて、透明のシートについては、技術的な点もあり、また、本日の資料を持って 3 月 1 日の市議会委員会への報告するため、本日の意見を受けて修正したものを提示していくといったことは難しいと考えているので、その後、修正を行っていくといった対応を検討させていただきたい。頂いたご意見の全てに対応していくのかといった点については、検討させていただきたい。

会長

「観光交流機能」を「レクリエーション・観光機能」に修正するという意見について、観光交流は、市外の人たちの価値観が中心となっているが、市民の立場からすると、市民のレクリエーション、市民の娯楽というように、市民がそこで楽しめるということを重視するべきではないかといった意見であるが、表現について検討してはどうか。

委員

生業と余暇の過ごし方の 66 ページについて、丹波市の観光は、地域の人たちが楽しめる事を、都会から来た人たちも楽しめるというのではないかと。都会から来た人たちだけが楽しく、地域の人たちが行かない観光施設では意味がない。生業と余暇ではなく、生業の話をしっかり書いていただきたい。生業で一つの章を構成してはどうか。

資料 2 の丹波市市民意向調査報告書（抜粋）の 8 ページでは、20 代、30 代の人たちが、なぜ今と同じ場所に住むかについて、「住み慣れた」、「親や子どもが住んでいる」こともあるが、「働く場がある」という回答が 3 割であり、この部分を伸ばしていく必要がある。「地域とのつながりがある」や「代々守ってきたものがある」などの重要度が、年齢と共に低くなっている。

60 代、70 代では、「住み慣れた」、「地域とのつながりがある」、「代々守ってきたものがある」ために定住されてきたところが比較的多くの回答があったのではないかと。あと 20 年経つと、割合がほぼなくなるかもしれない。仕事場があることがどれだけ大事かということがわかる。

生業は、一番大事な事として、一つの章を構成し、余暇の部分は、観光に入れてはどうか。自分たちが楽しいところを都会の人にも見てもらおうという姿勢を出していただきたい。

事務局

66、67 ページの生業と余暇の過ごし方について、表現的に不十分な部分があるかもしれないが、生業を単独の章立てとし、余暇について観光に含めるといった構成変更のご提案について、次の機会に向けて内部で検討させていただきたい。

会長

観光の中に産業化できるものがあれば、仕事につながることを意識しておくこと。

委員

43 ページの都市機能連携のイメージについて、都市機能の連携（例：介護福祉機能と商業機能などの都市機能同士の複合）ではなく、交通によってそれぞれの都市機能にアクセスし易くするという趣旨で書かれている。見出しと内容に違和感があるので、例えば「都市機能へのアクセス連携のイメージ」などの表現に変えてはどうか。

50 ページの図表：関連分野の設定、51 ページの図表：関連分野の位置付けにおける「公共交通と道路網」については、まちづくりビジョンの実現の中で考えると、順番としては、行政機能、生業、学校などの話が「公共交通と道路網」よりも先にくるのではないか。考え方としては、いろいろあるため、順番の考え方を確認ができればよい。例えば、理由として、第1の方向性の中で大事であるから位置付けているなど。

公共交通について、学校の統廃合による通学の問題がある。勉強することを保障しなければならない中で、学校が減っていくという課題がある。その中で、生業になり得るかもしれないし、新しい教育の概念が出てくるかもしれないが、課題としてあるので、検討していただきたい。

また、公共交通などは、地域によって事情が違うので、それを1つの場で決めなくてはならないのは難しい。分散する話が周辺部のイメージとしてあるのであれば、まちづくりを行いやすくするようなセンターの話などがあるのではないか。地域包括ケアシステムや学校など別々の話にするのではなく1つの地域の中で完結し、それが動きやすくするような、まちづくりの中でコンパクトにできるような視点も考えられるのではないか。

会長

明快な機能分担により分けきれものではなく、基本的な考え方を踏まえた上で、どのようなものが組み合わせあっていくのか、あるいは組み合わせるために、手段、サービス、支援の仕組みの問題などが関係してくるのではないか。考え方として整理する必要がある。

「公共交通と道路網」が最初に記述されている点については、順番は、優先順位を示しているものではなくて、全て重要であると理解した方がよいのではないか。数字が順位を表しているものではないことを共有しておきたい。

最後の部分の提案（地域における総合的なまちづくりの場や機能）については、今後のスケジュールを踏まえた上で、どのようにビジョンの中に盛り込むかは宿題とさせていただきたい。

事務局

43 ページの都市機能連携のイメージについて、事務局としてこれまでの議論をまとめた考え方としては、中心部と周辺部に暮らす人々が、何処に住んでいても都市機能を使い易く、利便性を高めるという趣旨で、公共交通を充実させると捉えている。ご意見として伺い、検討したい。

委員

計画全体が、丹波市内のみの公共交通やいろいろな分野の振興について書かれているが、観光は、地域の活性化を生み出し、生業や新しい産業につながっていくものである。それによって交流人口を増やしていくことが大事ではないか。市内の人のみが、デマンド（予約）型乗合タクシーを使ったり、路線バスを使ったりしているが、丹波市が発展していくためには、外からの流入や交流人口を増やす必要があることの明記が必要ではないか。交流人口を増やすためには、外部からのアクセスについてなど、丹波市外に関する基礎的な公共交通のデータ（例：高速バス）も押さえる必要があるのではないか。

中心部については、詳しく書かれているが、62 ページの地域自治の進展のあり方は、難しい課題である。現状は、担い手がないがビジョンであるので、書き方に止むを得ない部分があり、最後のページで参画と協働がないから成り立たないと書いてあり、うまく書き込まれている。現実、将来、25 の自治協議会が存続するかがわからないので、どこかにそのことを表記しておく必要があるのではないか。

全体として、超過疎地、おそらく 20 年後に集落として存続しないところもあるだろう。家が 1、2 軒あったとしても、インフラの維持・管理を続けるのかという厳しい現実の問題がある。地域自治については、もう少し書き方はないか。

会長

広域的な交通については、第 2 章で、広域ネットワークの中での丹波市の位置付けを示せないことはないので検討すること。

集落やコミュニティの持続可能性については、課題をみんなが意識しており、そのようなことが起こらないように、まちづくりビジョンを策定し行動していく。そのような恐れがあるから、書かないということではなく、恐れがあるからこそ、ここで書く視点が重要である。

委員

素案について、丹波市民向けの内容になっており、人口流出が問題となっていく中で、丹波市としては、いかに移住者を受け入れるかについても力を入れていかなければならない。素案は、今住んでいる方に向けた説明や、住んでいる方にとってメリットがあることは伝わるが、市外から来た人に丹波市が住みやすいまちであることをアピールするには、配慮が欠けているのではないか。

会長

市外の人たちも住みやすくなる、丹波市で仕事をしなくなるというアピールをどう入れていくかである。

事務局

64 ページの観光による地域振興のあり方の中で、まちの姿、『丹波市が「行ってみたい」、「買ってみたい」、「交流したい」、「住んでみたい」、「活躍したい」まちとして全国から注目され

ています。』と記述している。丹波市に来ていただくために何かをするのではなく、自分たちが行った結果、輝いている姿を見て、市外の人に関心を持っていただき、行ってみたい、住んでみたいまちを目指していくというメッセージが込められているが、頂いた意見については、検討したい。

委員

人口予測をする場合に、大学生の転出なども社会的要因として、考える必要があるのではないか。流入と流出だけでない要素もあるのではないか。

公共交通で中心部と周辺部を結ぶことについて、例えば、病院ができて、病院に来てもらうために、公共交通ではなくて、病院がバスを出すという発想が民間にはある。また、学校がスクールバスを出し、必要とする人のところへ行く発想も大事ではないか。

周辺に住民サービスを残していく構想について、例えば、将来を考えると、証明書の発行はネットでできるのではないか。商業施設のゾーンのあり方についても、買い物はネットでできるのではないか。

委員

41 ページの文化芸術ゾーンについて、「市役所の周辺」と書いてあるが、位置付けが明確ではないのではないか。行政ゾーン、文化芸術ゾーン、交流連携ゾーンは、方向性を考えていく必要があるのではないか。

医療福祉ゾーンの福祉について、高齢者、障がい者に対する取組、若者が住みやすい、定住しやすい施策、方向性を入れるべきではないか。特に福祉は、25 の自治協議会が中心となって高齢者支援推進もやっているが、成り手がない。個人情報の問題も含めて難しい状況にある。現実も踏まえて、一步踏み込んだ方向性を出す必要がある。

委員

まちづくりビジョンの中に入るかわからないが、福祉や小学生以下の子育ての部分がもう少し組み込まれていて、子育てがしやすい丹波市としたら、若者がもう少し住むのではないか。

事務局

37 ページ、都市機能イメージの中の子育て機能で記載している。

会長

(子育てしやすいというのは) 大変重要な視点で、市民の関心も非常に高い部分であるので、検討したい。

他に意見がないようなので、今後の流れとして、頂いた意見をとりまとめた上で、市民説明会やパブリックコメントの実施に向けて、「まちづくりビジョン」の修正を行っていく。「まちづくりビジョン」への意見の反映・修正については、会長と事務局に一任願いたい。

全委員

異議なし。

(2) 統合庁舎の候補地について

(審議会において非公開を決定し、審議を行ったため記録なし)

3 その他

(特に意見なし)

4 次回(第6回)審議会開催日程予定

事務局

平成30年度の審議会は、今回(第5回)で終了。

平成31年度の審議会は、4月、6月、8月の3回程度を予定。

(今後の市民説明会やパブリックコメントの実施の予定を踏まえ、開催日程を調整)

5 閉会

副市長

長時間にわたり、熱心なご議論、ご提案、ご意見ありがとうございました。貴重なご意見をいただいたので、出来る限り、まちづくりビジョンに反映していきたい。まちづくりビジョンは、各種の計画を踏まえ、20年先の方向性を示していくものである。大きな方向性を示したまちづくりビジョンの策定を受け、各分野での計画にさらに反映させていく。頂いた意見は、具体的な計画の中など、何らかの形で反映させていきたい。来年度においても、よろしく申し上げます。

副会長

第5回目の審議会で、長時間にわたり慎重にご審議いただきありがとうございました。

以上